

徳田けんいち後援会
代表 徳田 賢一
社会保険労務士・行政書士
東久留米市商工会広報委員長



地域振興、地域経済の活性化を図り、行政サービスを質量ともに向上させましょう。

1. 「活力のあるまち」をつくり、担税力を強化し、医療、介護、福祉、子育て、教育、就労、就業、生活全般にかかわる支援など、行政サービスを向上させ、さらに充実させましょう。

東久留米市においてはすでに多くの行政サービスが提供され、サービス内容も様々です。

行政サービスを向上させ、さらに充実させるには、それに見合った財源が必要になり、財源がなければ、そのための財源をつくらなければなりません。その点、家計も市の財政も同様です。

東久留米市の歳入は、大きなものとしては市税、地方消費税交付金、地方交付税、国庫支出金、都支出金ということになりますが、そのなかで収入と用途を自由に裁量できるのは、法人市民税を含めた市税、いわゆる自主財源になります。

市税を増やすには、一般的には、地域振興、地域経済の活性化を図り、東久留米市への転入、企業誘致を活発にし、市内での生産と消費を拡大するなどの方法が考えられます。

そのため、地域振興、地域経済の活性化が、行政サービスの向上、充実を考えるときの、大きな課題になります。

2. 市内の商店街、商工業、農業の在り方を検証し、有効なビジネスモデルを構築し、地域振興、地域経済を活性化しましょう。

市内の商店街、商工業者、農業者は、大型ショッピングモールや大企業、あるいは地方での農業とおなじようなビジネスモデルで事業を運営しているケースが多いと思われそうですが、市場においてそれらの事業者と競合するようになると、徐々に厳しい状況に直面するようになることが予想されます。

そして、商店街も商工業者も農業者も、大規模な事業者や条件に恵まれた事業者が持つ規模や効率の優位性に負けない独自の優位性、たとえば消費者のニーズを先取りした商品やサービス、新たなニーズ喚起による商品やサービス、あるいはオンリーワンの商品やサービスを提供することができなければ、このような状況を覆すことは、容易ではないように思われます。

大変険しい道程かとは思いますが、それらの選択を効果(差別化、競争力の強化)のあるものにするすることで、市内の商店街、商工業、農業が恒常的に繫業するようになり、持続的な好況に支えられた地域振興、地域経済の活性化が実現できるようになるように思われます。

3. 全員参加型の地域社会をめざし、働く意欲のある高齢者、障がい者の皆様が、健康であるかぎり、働き続けることができる就労場所、社会参加ができる場所を整備しましょう。

人間には時の流れ、暦によってカウントした暦年齢、クロノジカル・エイジと、時の流れ、暦とは関係のない生物学的な年齢、バイオロジカル・エイジというものがあるそうです。たとえば、あの人は年齢よりも若く見えると言われるときの見た目の年齢が、バイオロジカル・エイジということになります。

昔と違い、最近は大変若々しく見える人たちが大勢います。70歳になっても、80歳になっても、現役で働いている方々がいらっしゃれば、ご家庭で悠々自適の生活を満喫している方々もいらっしゃるなど、生き方は様々です。

しかし、高齢者の就労環境に関していえば、働く意欲があっても、なかなか思うような就労場所がないというのが実状ではないでしょうか。この問題については、国もすでに企業の定年の引き上げを決定していますが、国の施策とは別に、東久留米市内の事業所でも、そのような方々を受け入れ、働いていただけるような独自の制度を用意できると、企業と働く意欲のある高齢者の方々にとって、好ましい環境が整備できるようになるように思われます。